

復活の主との出会い

ヨハネによる福音書二〇章11〜18節

イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。(16)

主イエスが復活された日の朝、マグダラのマリアは空になった墓の前に立って泣いていました。マリヤは主が復活されたのだとは思っても及ばず、誰かがイエスの遺体を持ち出したのだと思っていました。そのような彼女に、主イエスは後ろから近づいて来られました。ところが心の目が曇っていたため、それが主だとは気づきませんでした。そのマリアに、その方が復活された主イエスであることを悟らせたのは、「マリア」と愛をもって名を呼ばれた主イエスのひと言でした。たったひと言でしたが、彼女にとってはそれで十分でした。良き牧者なるイエスは、愛する羊の名を呼び、不信仰の世界から連れ出してくださいだったのです(ヨハネ一〇3)。復活の主は今も、私たち一人ひとりの名を呼び、主が確かに生きておられることを信じるようにと、愛をもって招いてくださいます。